

326  
184

大正五年十月  
畜産業に関する施設概要  
宮城縣内務部



始



大正五年十月

畜産業に關する施設概要

宮城縣内務部

326-184

目次

第一 馬匹改良蕃殖に關する施設經營.....一

第二 畜牛改良蕃殖に關する施設經營.....一〇

第三 養豚普及に關する施設經營.....一六

第四 緬羊普及に關する施設經營.....二三

第五 養鶏普及に關する施設經營.....三三

第六 牧草栽培と牧野整理.....三三

第七 講習講話並實地指導.....三四

第八 家畜市場及牛馬商.....三六

大正  
5. 11. 30  
内交

## 畜産業に關する施設の概要

### 第一 馬匹改良蕃殖に關する施設經營

本縣は古來幾多の駿逸を産し夙に産馬地として名あり縣は從來産馬の獎勵に力を  
注ぎ明治二十五年以降年々産馬組合に對し現金補助をなしつゝありしも大正三年  
度より種牡馬を貸付することに更めて今日に及びり現在馬匹の總數は五萬四千  
餘頭に於て之を十年前に比すれば僅に四分の増加なるも農家戸數の増加率と畧ば  
相一致し一月當り〇、六二乃至〇、六三頭にして敢て充實せりと云ふを得ず又耕作  
地反別田畑合計拾貳萬餘町歩に對し一頭當り貳町貳反餘放牧地採草地面積四萬參  
千餘町歩に對し一頭平均八反歩餘に當る現況なり

年次	飼養馬數	農家戸數	農業戸數一戸當頭數
大正 四年	五四,三三九	八九,四〇七	六
大正 三年	五四,二七三	八八,一六九	六
大正 二年	五四,四五七	八七,八二二	六
大正 元年	五四,三七八	八六,八六九	六
明治四十四年	五三,五〇三	八六,二〇三	六
明治四十三年	五二,四〇五	八四,六二三	六
明治四十二年	五一,一八五	八四,四二〇	六
明治四十一年	五一,一八二	八四,四九九	六
明治四十年	五一,四六四	八三,七二五	六
明治三十九年	五一,四七七	八四,〇〇二	六

(イ)産馬改良方針 本縣産馬は古來より騎乗用として名聲を博し御料馬は多く本縣産なりしを以て當業者は縣内孰れの地方に於ても騎乗用馬の産出に適す

るものご速断し輓馬生産地方ご雖も乗用向種牡馬を使用するものありたる結果他府縣に比し進歩遅々たるの觀あり依て縣は大体に於て馬政局産馬改良方針に従ひ加美黒川栗原玉造の四郡即ち奥羽山脉に沿ふたる地方には舊來よりの慣行あり且つ氣候風土並熟練の點よりするも乗馬産地ごして好適地と認めサラブレット、アラブ、アングロアラブ、ギドランを以て改良し稍平坦なる地方には輕輓馬をも併用し其他の地方にはアングロノルマン、トロツター、ハツクニー、ノニユース等を以て輕輓並に小格輓馬を生産せしめんとしつゝあり宮城名取亘理の各郡に於ては古來より幼駒育成をなしつゝあるを以て育成地として其發達を期せしむべく獎勵中にあり

(ロ)生産頭數 牝馬總頭數貳萬五千餘頭蕃殖適齡のもの壹萬五千頭なりご雖も年々種付するものは七千頭に達せず隨て生産頭數參千餘頭にして之を十年前に比すれば三割三步の増加に過ぎさるも加美黒川玉造栗原の主産馬地に於て連年生産頭數を増加するのみならず尙一般に斯業に關する智識の普及を圖り

生産率を向上せしむるときは生産頭数を五千頭に達せしむること敢て難事にあらざるべし

産馬及斃馬頭數

年	年内出產頭數			年内斃死頭數
	内種	雜種	外種	
大正四年	二八、四四七	三、六九	二、七六八	三、二三四
大正三年	二五、四四六	三、七二	二、七三三	三、一九〇
大正二年	二五、四五一	五、九二	二、四四四	三、〇九七
大正元年	二五、三三三	五、二一	二、二二八	二、七九〇
明治四十四年	二四、八九二	六、七	一九九	二、七二五
明治四十三年	二三、四六四	九、九	一、五七四	二、七〇
明治四十二年	二五、〇三三	七、五三	一、六六三	二、五七七
明治四十一年	二三、七四三	一、〇四五	一、四七七	二、五七七

全 四十年	二、三八五	一、二二六	一、二四	七	二、四〇四	四九二
全 三十九年	二、四〇二	一、二六八	一、三三三	二	二、五九三	四二〇

備考 牝馬頭數の内蕃殖適齡馬頭數は統計資料なきを以て詳かならざるも大体に於て牝馬頭數の約六割内外なるべし

(ハ)種牡馬供用數 種牡馬は年々検査に合格したるものを使用せるが十二年前には供用數四百八拾四頭にして生産駒貳千頭の如き奇觀を呈せしが近年漸次淘汰の結果國有馬匹を合して貳百貳拾七頭に減少せり然れども猶種牡馬壹頭の種付牝馬數僅少にして平均參拾頭に達せず甚たしきは拾頭にも達せざるものあり従て劣等のあるを以て専ら國有種牡馬の種付を獎勵すること共に國有種牡馬種付の殘餘牝馬を組合有若は縣有のものに配合せしむることせば産馬經濟上多大の利益あるを認めらる

國有種牡馬種付獎勵の爲め馬政局に向つて種付所増設の申請をなしたるヶ所は宮村、枝野村、三本木町、米谷町、米山村、飯野川町、松岩村、生出村の

八ヶ所なり。こす但し現在種付所は宮城種馬所、松島村高城、吉田村、粕川村、鹿島臺村、笹嶽村、小野田村、宮崎村、温泉村、鬼首村、花山村、文字村、栗駒村、藤里村、御岳村の十五ヶ所こす

種 牡 馬 頭 數

年	種 牡 馬		頭 數	
	國 有	下 民	有	計
大正 四年	四	七	一六	三七
大正 三年	四	三	一七〇	三四
大正 二年	三	七	二二九	二八八
大正 元年	三	三	二四〇	二八三
明治四十四年	三	三	二五〇	二九五
明治四十三年	三	一〇	二五五	二九五
明治四十二年	三	一	二七九	三〇七

年	種 牡 馬	頭 數
明治四十一年	三	二八五
明治四十年	七	三三二
明治三十九年	三	四一七

(二) 縣貸下種牡馬 仙臺産馬組合に對し縣より貸付したる種牡馬は大正三年度

より既に貳拾九頭に達せり現在縣内に供用せらるゝ種牡馬は乗用向のもの六割、挽馬向のもの四割にして生産地方よりするも又一般社會の需要の點より見るも時世に適せざるを以て縣は主として挽馬向のものを貸付しつゝあり

(ホ) 馬格の改良 本縣産馬は素質劣悪なるにあらざるも一般に育成其宜しきを

得ざるのみならず需要少なきの憾みあるを以て今後は本縣産馬の缺點を補ふべき後軀充實し四肢過長ならず骨太き種牡馬を供用すると共に生産駒は勉めて放牧並に運動に注意し舍飼を避け蹄の保護管理を怠らずんば昔日の名聲を回復することを得べし明治三十六年以來軍馬二歳購買の頭數は一ヶ年百頭乃

至百五拾頭にして生産牡馬の約一割に當れり又二歳競賣の平均價額は五拾圓内外にして産馬地と稱せらるゝ東北六縣中山形を除き何れの地よりも劣等なりとす

軍馬購買(幼駒)

年	頭數	價額	一頭ノ價額		
			最高	最低	
大正四年	九〇	一一,七三五	三三,〇〇〇	九,〇〇〇	一三〇,三九
大正三年	八九	一一,二三四	三三,〇〇〇	八,〇〇〇	一三四,九〇
大正二年	一三〇	一四,八四八	二九,〇〇〇	八,〇〇〇	一三三,八二
大正元年	一七二	二〇,九六〇	二五,〇〇〇	七,〇〇〇	一一一,八六
明治四十四年	二〇二	二五,六五五	三八,〇〇〇	六,〇〇〇	一三七,六四
明治四十三年	一九二	二四,七〇五	三三,〇〇〇	六,五〇〇	一二九,三五
明治四十二年	一四二	一六,五〇〇	二八,〇〇〇	七,五〇〇	一一六,二七

二歳駒競賣

明治四十一年	一三五	一四,七八九	二五,〇〇〇	七,〇〇〇	一〇九,四八
明治四十年	一九二	二二,四三三	二六,〇〇〇	六,〇〇〇	一一一,六五
明治三十九年	一七	一六,〇〇〇	一五,〇〇〇	六,〇〇〇	九八,八四

年	頭數	價額	一頭ノ價額		
			最高	最低	
大正四年	三〇一〇	一三,一五六	一,一〇〇	一〇,〇〇	四三,五七
大正三年	二,八三五	一四,五〇八	九〇〇	一〇,一〇	五〇,六二
大正二年	二,五七	一三,八六一	一,〇五〇	八,五〇	五四,〇三
大正元年	二,四八八	一五,八六八	一,〇一〇	一三,六〇	六一,四四
明治四十四年	二,四八四	一四,七六一	一,七〇〇	一一,〇〇	五八,二八
明治四十三年	二,四三三	一六,五三二	一,一〇〇	五,〇〇	四七,七〇



明治四十二年	二,二五〇	一,九一六	一,一三〇,〇〇〇	一,〇〇	四八,五三
明治四十一年	二,三五九	一,三八七	八〇〇,〇〇〇	五,〇〇	五八,八二八
明治四十年	二,一〇九	一,三六一	一,一〇〇,〇〇〇	八,一〇	六二,六四〇
明治三十九年	一,七五四	七三,六八	九五〇,〇〇〇	八,五〇	四一,九七二

一〇

第二 畜牛改良蕃殖に關する施設經營

畜牛は農家の副業として最も經濟的動物なるを以て縣に於ては馬匹と共に從來之れが改良蕃殖を奨勵し畜産組合に對し現金補助をなすつゝありしも大正三年度より種牡牛を以て貸付することに更めたり現在總頭數參千有餘頭にして之を十年前に比すれば九割五分の増加を示せり今や主として刈田、柴田、名取、宮城、玉造の五郡に飼養せらる元來畜牛は蕃殖力大にして飼養し易く殊に利用の途廣くして且つ廉價なるを以て馬匹を飼養し能はざる農家に在りても容易に之を飼養し得る

の便あり

牛 頭 數

年次	内種	雜種	外種	計	上ノ内			
					乳搾用	農用	運搬用	繁殖用其他
大正四年	四三三	二,六八七	六五	三,一八五	五七三	八二九	三三〇	九一〇
大正三年	五三〇	二,六五七	九五	三,二八二	四九一	九四九	二九八	八九六
大正二年	五七九	三,〇〇四	七六	三,六六一	四八三	一,一八八	三〇三	一,〇一九
大正元年	五四〇	二,八八四	七五	三,四九九	四八五	一,〇六四	二八〇	九七七
明治四十四年	六二八	二,七五二	五五	三,四三五	五二七	一,〇七九	二三四	七六四
明治四十三年	七六八	二,四五一	五五	三,二七七	四九四	一,三〇八	二八二	五九一
明治四十二年	五六二	二,四〇九	六〇	三,〇三二	四一九	九四二	一九二	八八三
明治四十一年	七二二	一,四四三	七九	二,二三三	四〇六	七六〇	一一九	五九〇
明治四十年	七八	一,一八二	六九	一,九六九	五二〇	六九三	一一九	四〇三
明治三十九年	五五六	一,〇三五	五六	一,六一七	四五九	四二八	一七四	三三二

一一

(イ) 畜牛改良方針

畜牛改良には乳肉役の三用途牛孰れかを撰はさるべからず  
 縣に於ては從來エアレヤアー、ホルスタインの二種を以て改良し山沿の地方  
 には飼養し易きエアレヤアー種平坦地方には乳量多きホルスタイン種を以て  
 改良せしめつゝあり

(ロ) 生産頭數

最近一ケ年の生産頭數は五百頭にして之を十年前に比すれば三  
 倍強の増加にして非常なる進歩をなしたりと雖も食肉には年々不足し岩手山  
 形兩縣より約十頭を移入しつゝあり

産牛及斃牛頭

年	繁殖用頭數	年内出產頭數			計	年内斃死頭數
		内種	雜種	外種		
大正四年	九〇	三	四八七	五〇〇	四	
大正三年	八六	四	三七三	四三三	七	

年	繁殖用頭數	年内出產頭數			計	年内斃死頭數
		内種	雜種	外種		
大正二年	一〇一九	三	四〇〇	四〇〇	四	
大正元年	九七	三	四三	四四	三	
明治四十四年	七四	一	四四	四五	四	
明治四十四年	五九	一	四二	四三	三	
明治四十二年	八三	五	三九	四四	三	
明治四十一年	五九〇	三	一九七	二三九	三	
明治四十年	四〇三	二	一三一	一五五	一	
明治三十九年	三三	一	一三五	一五六	一	

(ハ) 乳牛

乳牛頭數は五百頭餘にして平均一頭の年搾取量は七石に達せず搾取  
 經營上損失を免れざる状況にあるを以て將來能力の改良に努め少なくとも十  
 石以上をなさざるべからず

牛乳搾取高及價額

年次	搾取場數	搾取高	販賣價格	現住人口一人當搾取高
大正四年	一五六	四、四四五 <small>石</small>	一一八、〇七 <small>円</small>	〇〇三 <small>石</small>
大正三年	一五九	三、八二五	九三、三九二	〇〇三
大正二年	一四七	三、六六八	九五、四四七	〇〇四
大正元年	一四六	三、四八六	一一二、四三二	〇〇三
明治四十四年	一五九	三、四四六	九五、三七一	〇〇三
明治四十三年	一三六	三、五六六	九七、六六一	〇〇四
明治四十二年	一三七	二、九八七	九二、〇七〇	〇〇三
明治四十一年	一三三	三、二三四	七七、〇五八	〇〇四
明治四十年	一〇七	三、二一九	七四、二五二	〇〇三
明治三十九年	九五	三、〇二八	七二、〇五三	〇〇三

備考 搾取高は衛生検査に合格したるものにして搾取の總高にあらず搾取場數欄に於て明治四十一年前は營業者數を掲げたり

(二)肉牛 肉牛として屠殺せらるゝもの一ケ年約千二百餘頭にして十年前に比し二倍餘の増加をなしたりと雖も猶人口一人當り〇、三斤なり將來肉食の發達及人口の増加に伴ひ益々肉牛を要するが故に名取宮城二郡の如く畜牛使役の習慣ある地方には一層牡犢の飼養をなさしめ使役の上肥盈せしむべし畜牛使役者は一般に牡牛を撰び且つ去勢を惡むものなるが其の去勢を惡むは使役の際元氣なく一時的に牛其の者の力以上に働かすことを得ざるに歸因するものにして終局の目的たる肉質は却て劣惡となり肥盈し難きを以て之れが去勢をなさしめんとしつゝあり

屠殺牛數

年次	屠場數	頭數	斤量	價額	現住人口一人當斤量
大正四年	一三	一二五三	三二七 <small>千斤</small>	五五、一九 <small>円</small>	三 <small>斤</small>

大正三年	三	一,二八二	三九	一〇六六五	四
大正二年	三	一,三三九	三二	一一,九七	三
大正元年	三	一,〇三六	二四	六二,三九六	三
明治四十四年	二	一,二二四	二九	六四,一八六	三
明治四十三年	二	八五四	一九	三三,〇九七	二
明治四十二年	七	六三三	一四	三〇,一七	二
明治四十一年	六	四九〇	一四	二七,四四〇	二
明治四十年	三	六三三	三六	三二,〇一八	三
明治三十九年	四	六二〇	一八	四八,〇六四	二

一六

(ホ)種牡牛供用數 生産頭數四百頭なるを以て畜牛の生産歩合よりするときは種牡牛は拾八頭にして可なるが如きも飼養者は馬匹の如く集團的ならず且つ畜牛は歩行遲鈍にして遠きに牽付け難き事情あるを以て比較的多數の種牡牛を要し最近五ヶ年間を通して參拾五頭の種牡牛を使用せり

縣は大正三年度より畜産組合に種牡牛を貸付したるものエアレヤア一四頭ホルスタイン五頭計九頭にして猶昨年は組合に於て農商務省よりエアレヤア一壹頭の貸付を受けたり

(ハ)優良牝牛足留策 縣外に年々移出せらるゝ牛乳は約千石にして多くは岩手福島栃木の三縣に仕向けらる夏季に於ては仙臺市附近にて一日約二石の餘乳を生ず由來本縣の畜牛飼養家は泌乳期に於ては牝牛を搾取營業者に賃貸し種付を受くる外貳拾圓乃至五拾圓の料金を以て満足する状態なるが故に畜牛改良は搾取營業者に左右せられ到底合理的畜牛改良は今日望むべからざる状況なりこそす從て一般飼養家たる農家は収益少なきが故に折角改良せられたる比較的優良牝牛を他に移出せらるゝこと多く自然改良の効果を全ふすることを得ざるが故に之れが足留策を講ぜざるべからず

第三 養豚普及に關する施設經營

豚は牛馬の如く大なる家畜を飼養し能はざる小農にても容易に飼養することを得又自給肥料作製上最も有利なりと雖も其の蕃殖率の大なるが爲め往々販路に困難することあるを以て之か販路に就き考究せざるべからず

現在總頭數八千七百頭にして明治四十一年壹萬餘頭に達したる外近年七千頭内外十年前に比し二割九分の増加をなすも農家一戸當り〇・一にして仙南各郡及宮城郡に最も多く飼養せられ志田登米桃生牡鹿の四郡之れに亞く生産頭數は年六千餘頭にして十年前に比すれば六倍に達す

(イ)改良方針 養豚改良の爲めには縣農會に於て農商務省よりヨークシャアー種豚を拂下蕃殖賣却しつつありと雖も一般の飼養管理法粗悪なるが故に發育悪しく肉質良好ならず又牡豚にして去勢せざるもの多く市價低廉なるを以て牡豚の去勢と共に澱粉質飼料の供給を計り生後八ヶ月にして生体量二十五貫乃至三十貫とし販賣前一二週間特に之を肥盈せしむる様なさざるべからず

養豚頭數

年次	現在頭數			農家戸數 一戸當頭	年内生産 頭數	年内斃死 頭數
	内種	雜種	外種			
大正四年	一,五五二	六,五八四	五七三	一〇,〇九	六,九一九	一〇,一〇
大正三年	一,五七四	五,六四三	五〇〇	〇,九	六,三六九	八三
大正二年	一,三五七	四,七〇三	五二一	〇,七	五,一三六	六六一
大正元年	一,四九八	四,〇三六	六八九	〇,七	五,〇七九	七二
明治四十四年	一,八四六	四,八二九	七六四	〇,九	五,一七九	六〇九
明治四十三年	二,三六二	五,六七八	四六八	一,〇	四,九七八	九三〇
明治四十二年	二,二八二	六,三〇二	六〇七	一,一	五,六一八	九四
明治四十一年	三,三八八	六,六三三	六三三	一,三	六,一三八	六七八
明治四十年	一,三三〇	三,二八一	七七八	〇,六	二,五九〇	三六一
明治三十九年	一,一五〇	一,五二四	二八三	〇,四	九六九	一一六
計						

屠殺豚數

年	頭數	斤量	價額	現住人口一人當斤量
大正四年	六,七四三	四,七七一	六,三三二	三・五
大正三年	三,八三九	二,六三三	四,六五四	三・三
大正二年	四,二八一	三,〇三二	五,九〇七	三・三
大正元年	四,七七五	三,四二二	五,四六六	三・四
明治四十四年	四,九七三	三,〇三三	五,〇七七	三・四
明治四十三年	五,一六九	三,五七七	四,二六〇	三・四
明治四十二年	五,二九七	三,八六六	四,三二六	三・四
明治四十一年	四,一九九	三,〇九九	三,五二八	三・四
明治四十年	二,七〇六	二,三四四	二,五四三	三・三
明治三十九年	一,八四八	一,六四四	一,八八八	二・二

第四 緬羊普及に關する施設經營

緬羊は栗原郡清瀧村及登米郡淺水村に多少飼養するものあるも其他に飼育するものなく又肉の販路も未だ開拓せられざるを以て之が普及に就きては目下調査中に在り

第五 養鶏普及に關する施設經營

養鶏は農家副業として有利なるを認め大正三年より養鶏獎勵の爲め縣農會に對し金參百圓の補助を交付したるを以て農會にては夫々種卵の交付をなしたり云ふ現在家禽總數四拾萬羽にして近年著しき發達をなし十年前に比し羽數に於て六割飼養戸數に於て一割二分の増加をなし現在五萬參千戸なり即ち戸數よりも羽數の増加を見たるを以て現在一戸當り九羽なるも將來益々之れが一般飼養を計らざるべからず而して縣農會に於ては從來レクホーン、プリマスロツク、名古屋コーチンの種卵を配布したり

養鶏及産卵

年次	飼養戸數	成禽羽數	雛	産卵個數	全上價額	飼養戸數一戸 當産卵價額
大正四年	五、六三七	二八、〇三三	一五九、三九二	二〇、三五、八〇二	三八、二二三	七、四〇二
大正三年	五、八五五	二九、八四二	一四四、六九三	二一、〇五、七八六	四〇、一五〇七	七、六二五
大正二年	五、九七七	二九、〇七六	一四〇、〇九二	二〇、六六、二九九	三七、〇八七	七、二一八
大正元年	五、八二二	二八、五三二	一三〇、七〇七	一九、六六、四〇九	三五、〇三八九	六、六三五
明治四十四年	五、八三三	二七、八五五	一三二、九四六	一九、三〇、四、一二	三四、二五三	六、二五五
明治四十三年	五、二六五	三〇、一五九八	一六一、三九五	一八、九八、〇四二	三二、七七一	六、一五七
明治四十二年	五、八一四	二九、九〇六	一六七、四一〇	一九、七五、九九三	三二、五〇九	五、九九三
明治四十一年	五、八五九	二八、三八〇	一五四、〇八八	一八、八六、〇、一九四	三二、九六六	七、三六五
明治四十年	五、一七七	二五、一、二七三	一二三、七五五	一六、四三、六、一七六	二八、七、四八四	五、五五八
明治三十九年	四、九四七	二三、一、五三三	一〇七、九八七	一六、九七、六、〇四二	二六、六、四六五	五、七九二

(イ)産卵能力の向上と去勢

産卵年額貳千百萬個内外にして一羽の産卵數約七

拾五六個なるも其の改良せられたる産卵鶏は少なくとも百五十個を越ゆるものなるを以て少なくとも平均百個以上となさざるべからず由來本縣家禽は外貌美麗にして各地品評會に於て優勝を占むるは喜ぶべき現象なりと雖も其の結果産卵能力の相伴はさるの憾あるを以て之か能力改良の點に付考究しつゝあり又飼養者は一般に雌雄配合數の割合を誤れるもの多きを以て之れが減少を計ると共に去勢をなすに於ては養鶏經濟上利益多大なるべきを信す

養鶏組合 養鶏の普及を欲せは飼養戸數の増加を計らざるべからず而して之れが圓滿なる發達を遂けしめんことをば組合を組織せしめ種禽の供給飼料購入生産物の販賣等をなさざるべからず

第六 牧草栽培と牧野整理

牛馬の改良蕃殖には廣大なる牧野を要するも近年林野整理の結果採草放牧の箇所漸次減少し畜産上多大の影響を來たしたりと雖も林野の整理は時運の己むを得さ

るものなるが故に規定の採草放牧地の保護及整理をなさしめ進んで牧草栽培をな  
 さしめんとす

第七 講習講話並實地指導

放牧地及採草地面積

(大正二年調)

名	放牧地		採草地		合計
	國有地	公民有地	國有地	公民有地	
仙臺	町	町	町	町	町
刈田		五〇九〇	七三〇	二,五三二	二,六六二
柴田			五二〇	七三八	一,二四九
伊具			一九七	七八三	九一九〇
巨理			一〇一四	一,〇三六	一,一三七八
名取				六〇一三	六〇一三
合計					町

宮城	放牧地		採草地		合計
	國有地	公民有地	國有地	公民有地	
川城		一,〇〇五,〇	五九〇,八	二,五三三,一	三,一四四,〇
加美	三五〇,〇	一〇〇,〇	五〇〇,四	五,〇三三,六	五,五三三,〇
志田					
玉造		四九五,五		二,〇六一,三	二,五五六,八
遠田	四二二	九三	一七〇,六	三五八,七	五二九,三
栗原		八〇,〇	三九七,一	八,六七二,七	九,〇六九,九
登米	二九八		一三,七	一,〇四,八	一,一八,五
桃生			一三〇,八	九七四,七	一,一〇五,六
牡鹿	二〇三,〇	三八〇,一	二〇三,〇	三七四,三	五七七,三
本吉			一七六,六	六,三三三,九	六,五四〇,五
合計	七五〇	五,六五三,六	三,二一七	三四,一九〇,二	三七三〇,一,九

第七 講習講話並實地指導  
 畜産業の發達を期せんご欲せば當業者の知識開發を圖るを急務とするを以て從來



之か講習講話實地指導をなすつゝあり

### 第八 家禽市場及牛馬商

家禽市場は常設一、定期二十四内仙臺産馬組合開催二歳駒の分十八にして産馬組合以外のものは大抵不振に屬し年中賣買皆無のケ所あり一方牛馬商は千參百餘名あるも未だ之が團結を見るに至らず總て財力微弱にして充分なる活動をなす能はざるの狀況に在るを以て之れが組合を組織し其活動を計らしむるの要あり

大正五年十月十日印刷  
大正五年十月十五日發行

### 宮城縣内務部

仙臺市片平丁四十五番地

印刷者 早坂亥質

仙臺市片平丁四十五番地

印刷所 早川活版所

電話八六〇番

326  
184

終

